

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の 特徴	市内で診療所、こどもクリニック、歯科クリニック等の医療サービスや様々な介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペース「わいが家」を併設し、地域住民との交流の場になっている。診療所、居宅介護支援事業所をはじめとした複数の同法人事業所が近隣にあり連携に努めている。ご利用者ひとりひとりの笑顔を引き出す事を目指し柔軟性ある個別ケアに取り組んでおり近年は近隣の保育所や小学校の子供たちと触れ合う機会も増えている。
事業所名	プラット新町	管理者	渡辺 裕太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人	1人	3人	3人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で各種研修会への参加は中々難しい為、テーマを決めて事業所内学習会、研修会を積極的に行っていく。また、オンライン開催の研修にも着目し参加できる機会を作っていく。 ●継続して新規利用者受け入れ担当は固定せず、人員体制を見ながら現場職員も契約や事前訪問に同行できるようにする。同行できなかった場合は、アセスメント等を参考にしながら情報を共有する時間を確保する。 ●外部評価の理解をより深める為に、定期的にサービス評価の進捗状況を全職員が集まる部署会議で報告する機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所内の学習会の開催はあまりできなかったが、環境を整え、オンライン研修には参加できた。 ●新規受け入れの際の現場職員同僚については、人員体制的にできなかった。ただ、その分利用開始前にアセスメントを元に情報共有する機会は確保でき、スムーズに対応することができた。 ●外部評価の進捗状況の報告や現場職員の理解を深めることは、まだまだ足りないと思う。今後もっと報告する機会を設けていくべきだと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長引くコロナ禍の中、支援回数を増やすということはとても大変な事と思う。 ●研修への参加は困難かと思うが、環境が整いスタッフの学びの場が広がる事を期待したい。 ●オンライン研修は全員の参加は難しいが、参加したメンバーが参加していないスタッフにどう伝達するか、お互いが統一したケア・情報を共有できるかが中身のあるオンライン研修だと思う。 ●担当職員を知ることで利用者はもちろん、家族も相談しやすくなり、コミュニケーションを取りやすくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響を見つづ、積極的な研修参加また、オンライン研修が主流となっている中の為、オンライン研修を実施できる施設の環境設定を行う。 ●施設内学習会の強化を行う。 ●継続して担当職員紹介シートの作成を検討し、ご利用者・家族から相談しやすい関係づくりを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して壁面飾りをわいが家に貼り出し、地域の方々に見てもらおう・施設を知ってもらおう(印象付ける)取組を行っていく。 ●継続して玄関内外の環境整備を定期的に行う。(花植え、野菜作り等)また、分かりやすい看板の作成、設置を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍でわいが家利用の方の数は少なかったが、わいが家の壁面飾りの貼りだしは継続して実施することができた。 ●今年度も時期に合わせた環境整備を行うことができた。野菜作り又ご利用者の家族から定期的にお花を頂き、玄関前に飾ったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設玄関が分かりづらく迷われている方、名称も似ているため勘違いされる方が多く見受けられる。看板や案内があるといい。 ●壁面飾りはご利用者と一緒に作成した物かと思うがこれからも継続してほしいと思う。 ●コロナ禍で“知ってもらおう取組”は難しい事が多いと思うが、利用している方にとってはとても 	<ul style="list-style-type: none"> ●手作りの施設看板の作成を行い、施設の場所を分かりやすくする。(環境整備の継続) ●継続して、わいが家への壁面飾り掲示を行いわいが家ご利用者へ興味を持ってもらえる取組を行う。 ●玄関前の環境整備の強化

			良い取り組みだと思うので継続してほしい。	
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスに留意しながらできない事だけを考えるのではなく、コロナ禍でもできる事を模索しながら近隣施設との交流の継続をしていく。(こども園との作品交換、コミセンとの連携等) ●継続して、回覧板にプラット新町の紹介や活動報告などを載せて地域の方に知ってもらう取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミセンとの連携は図れなかったが、定期的に保育園とは作品交換という形で交流できていた。 ●地域の方に知ってもらう取り組みは実施できなかった。回覧板への掲載等もまだまだ連携不足だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の子供がこども園にいた時に、交流会を楽しみにしていたのでこれからも続けて頂きたい。 ●広報誌は継続していくことが大切だと思う。事業所を知って頂くきっかけになると思う。 ●対面や直接的に地域と関わる事が難しい状況かと思うが、地域密着サービスに大切な繋がりを保ちつつ、引き続き取り組んでもらいたい。 ●今後は広報活動が事業所を知ってもらう為の強みになると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響を見ながら継続して、こども園との交流を実施していく。 ●オンライン(ZOOM)等を活用した交流を行っていく。 ●直接的な交流が難しくなると思われるため、広報活動に力を入れていく。(施設の紹介を回覧板等へ掲載)
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●個別ケアに力を入れる為、定期的に(概ね3カ月くらい)個別ケア強化月間を設け、職員のスキルアップ・個別ケアの質の向上を図る。 ●感染症対策の徹底、状況を見ながら継続して介護相談会・懇親会の開催を設け、ご近所や知り合いの方などに情報を発信できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●強化月間の確保は出来なかった。ただ、徐々に個別ケアに対する個々の意識が変わってきていると感じる。個別外出や誕生日の特別食事会などささやかではあるが個別ケア提供は実施できていた。 ●介護相談会、懇親会の開催はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者のニーズに合わせて個別ケアに力を入れていたと思う。 ●困りごとの相談窓口となれるように「いつでも相談受け付けます」という姿勢を地域へアピールできるといいと思う。 ●この状況の中でできることは限られると思うし、難しかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して、個別ケア強化月間を設け、ご利用者・ご家族との関係構築に努める。また、職員のスキルアップに繋げていく。 ●わいが家を利用し、介護相談会や地域の方のお話を聞く機会を設ける。 ●地域の相談窓口を認識して頂けるようなポスターを作成し、地域に発信していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●できる限り、役職者以外の職員も運営推進会議に参加をし、理解を深める。多くの職員が会議を通して地域密着型施設の役割を把握できるようにしていく。 ●各職員から会議で取り上げてほしい事・地域に対しての疑問点・地域へ発信したい事を聞き取り、地域と施設お互いの事を知る機会を作っていく。 ●地域包括支援センターとの連携を継続し、話を聞く機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で運営推進会議の開催ができず、役職者以外の会議参加は達成できなかった。地域密着型施設の役割に関してはオンライン研修にて少なからず把握できるよう取り組めたと思う。 ●各職員への聞き取りは不十分であり、なかなか地域のことについて知る機会を設けられなかった。 ●地域包括支援センターとの連携はコロナ禍ということもあり、実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●会議資料は毎回写真などを活用し、わかりやすかった。書面での事例検討は難しいと思う。 ●通常開催ができるようになり、意見交換できる環境が持てると地域課題が明らかになると思う。 ●構成員や利用者の家族の意見を取り入れながら改善に取り組んでいると思う。 ●スタッフ一人一人温度差があると思う為、どう会議について意識付けできるか課題だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議開催月に合わせて、その月の部署会議内で進捗状況・構成員の皆さんから出た意見・疑問点など現場スタッフに報告する機会を設け、意識付けを行っていく。 ●継続して、地域包括支援センターとの連携を行う。(地域ならではの事例を聞き、現場スタッフに周知・学習会のような形で地域密着型施設の役割、意識付けを行う)

F. 事業所の
防災・災害対策

●様々な災害想定をし、新たな想定訓練の模索していく。また、職員にアンケートを取りどんな訓練が災害時に役立つのか現場の意見も反映しながら訓練の計画をしていく。

●老健あらまちとの合同訓練を継続しながらより多くの施設(新町事業所群内)との合同訓練を計画し実践する。

●前年度に引き続き、民生委員や近隣の教育施設に対し、災害時には障害を持つ方へのサポートや一時的な受け入れが可能という旨の文書を出し、災害時の役割を知って頂く機会を作る。

●少しではあるがより実践的に近い想定訓練はできたと思う。ただ、どんな訓練が役に立つのか現場への意見は聞くことができなかった。

●老健あらまちとの合同訓練は継続して実施できており、連携が図れた。他の施設との合同訓練は実施できていない。

●民生委員との連携は図れていない。

●夜間想定緊急連絡網訓練は日時を事前に知らせないということで本番に活かせるとても良い訓練だと感じた。

●近隣施設やご近所さんとの協力関係を引き続き構築していただければと思う。

●今年度も昨年度も町内や小学校区の単位での訓練は開催されたのか。

●町内には高齢者が多く支援が必要な方もいるので、大規模災害時には近隣住民との連携ができるよう計画して町内会と共有できるようにできたらいいと思った。

●夜間や人手が足りない時に対応がどこまで可能かということが気になった。

●老健あらまちとの合同訓練の継続に併せ、その他近隣施設とも連携を図り、より現実的な訓練を実施していく。

●各想定によって(地震・火災・水害)現場スタッフにどのような事が起きるのか、シュミレーションしてもらい、意見を収集。それを元に訓練想定を行う。

●災害時のサポートや一時的な受け入れ可能の文書を作成、地域に発信し施設を認識してもらい取り組みを行う(前回の改善計画の継続)